

19-02-06

ミュースカイの車内案内を多言語化します

名古屋鉄道では、中部国際空港へのアクセス列車である「ミュースカイ」において、車内案内表示器や車内自動放送による案内の多言語化を実施します。

ミュースカイでは、現在、車内における表示器や自動放送による案内を、日本語と英語の2カ国語で実施していますが、これを日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語での案内とします。また通常時の案内に加え異常時における案内の一部も多言語化し、外国人のお客さまに伝わりやすくすることで、サービスの向上を図ります。

ミュースカイにおける案内の多言語化は、2月12日(火)から一部列車におけるテスト実施を経て、3月中旬から、ミュースカイ全列車に順次導入します。

なお、車内での4カ国語での案内は当社初となります。

詳細は、下記のとおりです。

記

1. 実施時期 3月中旬から順次導入 ※2月12日(火)から1編成でテスト実施を開始
2. 実施列車 ミュースカイ全列車
3. 実施内容
 - (1) 車内案内表示器

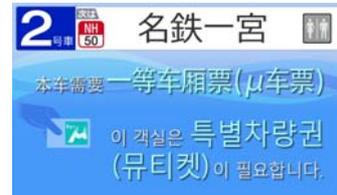
- 行先、停車駅、乗換案内、ミューチケットが必要であることを、4ヶ国語(日本語、英語、中国語、韓国語)で表示します。
- 異常時案内の一部内容について、4ヶ国語で表示します。
- 停車駅案内に、新たに駅ナンバリング表示を追加します。



駅停車中案内(中国語)



停車駅案内(韓国語)



μチケット案内(中国語・韓国語)

(2) 車内自動放送

- 始発駅において、日本語及び英語で、行先・停車駅と特別車両券(ミューチケット)が必要であることを案内します。また、中国語及び韓国語で、行先とミューチケットが必要であることを案内します。
- 途中駅において、到着時に到着駅名と乗換案内を、発車時に次の停車駅を、それぞれ4ヶ国語で案内します。
- 終着駅到着時において、到着駅名、乗換案内を4ヶ国語で案内します。
- その他、不審物に関する注意喚起案内などについても、4ヶ国語で案内します。

この取り組みは、「名鉄グループ中期経営計画~BUILD UP 2020~」(2018~2020年度)の重点テーマのひとつ「成長事業への積極的な投資と収益力の向上」を図る施策の一環として、インバウンド需要取り込みのための営業・サービス強化を目的とするものです。

以上